



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

増刊号

No. 397

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



埼玉県野鳥分布調査

—2005年～2010年—

日本野鳥の会埼玉 研究部

1. はじめに

前回の調査（文献1）から20年を経て、2005年5月から5年間実施した県内野鳥分布調査は、2010年1月に終了した（文献2、表1）。調査結果は、調査ごとに設定した注目種を中心として本誌にその都度報告した（表2）。

本報告は、調査の結果を、分布図としてまとめたものである。ただし、本調査はあくまでも得られた情報をまとめたものであって、県内全域をカバーしてはいないことから、県内の野鳥の完全な分布状態を示すものとは言えない。しかし、県内の野鳥分布状態について前回の調査と比較することで、その変化の一端を示すことができたと考えている。

表1 調査概要

調査年限	2005年5月～2010年1月	
期 間	夏鳥	5月10日～7月10日
	冬鳥	12月1日～1月31日
調査方法	調査はがき、探鳥会報告、野鳥情報等	

表2 調査ごとの注目種

調査期間	注目種	文献
2005年夏	ガビチョウ	3)
2005/2006年冬	ミヤマガラス	4)
2006年夏	サシバ	5)
2006/2007年冬	ホオアカ	6)
2007年夏	コアジサシ	7)
2007/2008年冬	シラコバト	8)
2008年夏	シラコバト	9)
2008/2009年冬	ユリカモメ	10)
2009年夏	カッコウ	11)
2009/2010年冬	アオゲラ	未発表

2. 調査方法

会員に配布した調査ハガキによるアンケート、調査期間中の野鳥情報や探鳥会報告をJIS X 0410「地域メッシュコード」（日本工業規格1976年制定、2002年改正）に基づく基準地域メッシュ単位の出現鳥として整理し、Microsoft社のACCESSでデータベース化した。基準地域メッシュは、国土地理院の発行する2万5千分の1地

形図を縦横10等分したときの1区画で、面積は約1平方kmである。

なお、野鳥の分布を示す図は、2万5千分の1地形図を縦横2等分したときの1区画である5倍地域メッシュ（以下、「5倍メッシュ」という）を単位として表示した。これは、前回の調査報告と同じである。

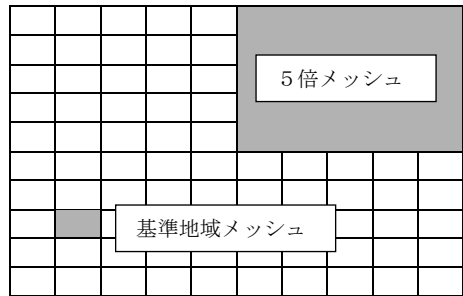


図1 基準地域メッシュと5倍メッシュ

3. 調査期間の設定

夏鳥の調査は、本調査が繁殖調査ではないため、渡りも含んでいるが、県内における繁殖の可能性が想定できる期間を設定した。

冬鳥の調査は、越冬として一番安定している期間を設定した。

4. 調査メッシュ数と観察種数

調査した5倍メッシュ（5年通算）を図2に、観察種数とメッシュ数を表3に示す。○は夏鳥調査が実施された5倍メッシュ、+は冬鳥調査が実施された5倍メッシュである。また主な都市名と5倍メッシュの関係を図3に示した。

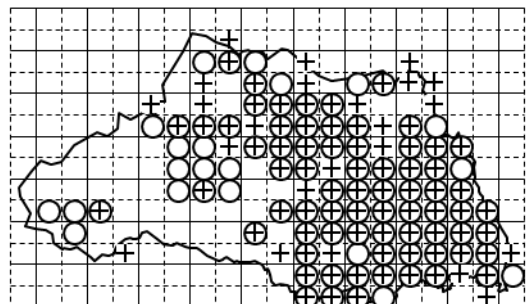


図2 調査した5倍メッシュ

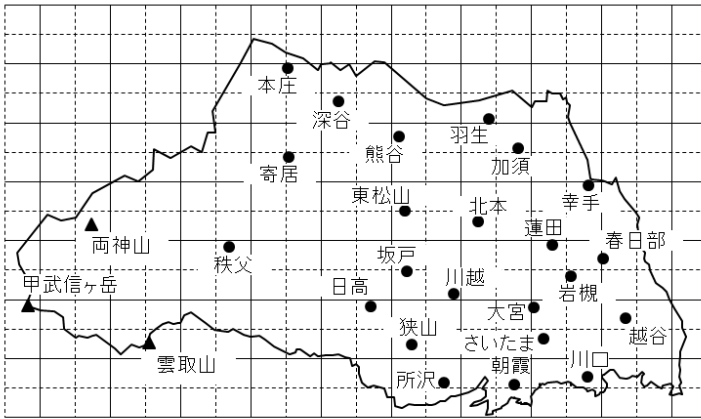


図3 5倍メッシュと主な都市
(実線が2万5千分の1地形図の範囲、破線は5倍メッシュを分割する線)

表3 観察種数と調査メッシュ数

年	夏鳥調査			冬鳥調査		
	種数	基準	5倍	種数	基準	5倍
2005	112	118	57	109	113	55
2006	91	71	41	119	138	64
2007	90	86	43	119	102	53
2008	109	104	51	115	142	67
2009	97	71	35	118	116	61
通算	141	267	91	151	319	94

注) 基準=基準地域メッシュ、5倍=5倍メッシュ

5. 野鳥分布図の見方

分布図(6~26ページ)を掲載したのは168種である。記録があって分布図を掲載しなかった種は表4のとおりである。

調査地域を示す図2と同様に、○が夏鳥調査で生息が確認された5倍メッシュ、+が冬鳥調査で生息が確認された5倍メッシュである。

表4 観察報告があって分布図非掲載の種

ヤマドリ、アカエリカイツブリ、ミミカイツブリ、オオハム、シロエリオオハム、ミゾゴイ、シロハラクイナ、ウズラシギ、カモメ、クマタカ、オオコノハズク、トラフズク、オオアカゲラ、オウチュウ、オオムシクイ、エゾセンニュウ、キレンジャク、オジロビタキ、ツメナガセキレイ、コイカル、以下番外鳥：ドバト、カオグロガビチョウ、コブハクチョウ、コリンウズラ、バリケン
--

6. 前回調査結果との比較

(1) 調査メッシュ数

前回調査された5倍メッシュの数は夏鳥調査120、冬鳥調査111であった。今回は夏鳥調査91、

冬鳥調査94となった。夏・冬鳥調査ともに前回よりも減少しており、夏鳥調査での減少がより大きかった。

(2) 今回新たに記録された種

表5に今回の調査で新たに記録された種を示した。種名の後の()内の数字は、その鳥が記録された5倍メッシュ数を示す。

表5 今回新たに記録された種

夏鳥調査	冬鳥調査
シマアジ (1)	オオハクチョウ (3)
ケリ (3)	オオバン (35)
セイタカシギ (2)	アマツバメ (1)
オオセグロカモメ (1)	トウネン (1)
ガビチョウ (16)	ミサゴ (3)
—	サンショウクイ (1)
—	コクマルガラス (8)
—	ミヤマガラス (15)
—	センダイムシクイ (1)
—	キバシリ (2)
—	イソヒヨドリ (1)
—	ニュウナイスズメ (2)
—	ガビチョウ (13)
—	ソウシチョウ (5)

夏鳥調査では、外来種のため前回は調査対象外であったガビチョウを含め、5種が新たに記録された。そのうち、ケリ、オオセグロカモメは、前回には冬鳥調査のみで記録されていた。

冬鳥調査では、外来種のため前回は調査対象外であったガビチョウとソウシチョウを含め、14種であった。そのうち、オオバン、アマツバメ、トウネン、サンショウクイ、キバシリは、

前回には夏鳥調査のみで記録されていた。

表5に掲載された鳥のうち10種（オオハクチョウ、シマアジ、ミサゴ、セイタカシギ、コクマルガラス、ミヤマガラス、イソヒヨドリ、ニュウナイスズメ、ガビチョウ、ソウシチョウ）について、今回新たに分布図を掲載した。これらの種は、シマアジとニュウナイスズメが近年減少傾向と見られるほかは、分布域を広げつつあると見られる種である。特に、オオバン、ガビチョウ、ミヤマガラスの3種は分布域の増加が著しい。

(3) 前回分布図を掲載し、今回記録なしの種

12種（マガン、アカハジロ、ケアシノスリ、コミズク、コノハズク、ブッポウソウ、アカエリヒレアシシギ、コシアカツバメ、チゴモズ、オオモズ、マミジロ、コジュリン）であった。

(4) 前回、今回とも分布図を掲載した種の増減

前回、今回ともに分布図を掲載した夏鳥調査129種、冬鳥調査132種について、記録された5倍メッシュ数が調査した5倍メッシュ数に占める割合を求め、増減を調べた。

たとえばシラコバトは、前回の夏鳥調査では調査した120メッシュ中の34メッシュで記録されており、その割合は28.3%となる。これに対して今回の夏鳥調査では91メッシュ中の19メッシュで記録されたので、割合は20.9%であった。よって、割合の比は前回に対して0.74となる。

このようにして各種ごとに前回調査に対する割合の比を算出した。前回に比べて記録された5倍メッシュの割合が増えた種、減った種がどれぐらいあるのかを表6に示した。

表6 記録された5倍メッシュ割合の前回比

	夏鳥調査	冬鳥調査
前回調査比	種数	種数
0.5以下	28	17
0.5超～0.8以下	25	26
0.8超～1.2以下	42	42
1.2超～1.5以下	15	13
1.5超	19	34
計	129	132

前回比が0.8超～1.2以下と比較的変化が小さかった種数は、夏・冬鳥調査とも42種で、それぞれ分布図を掲載した種数(夏129種、冬132種)の約30%にあたる。

前回比が0.5超～0.8以下に減った種数は、夏・冬鳥調査ともほぼ同じであった。

前回比が0.5以下に減少した種数は、夏鳥調査では129種中28種であるのに対し、冬鳥調査では132種中17種であり、冬季よりも夏季のほうが多かった。

前回比が1.2超～1.5以下に増加した種数は、夏鳥調査で15種、冬鳥調査で13種と、ほぼ同じであった。

前回比が1.5超の種数は、冬鳥調査(34種)が夏鳥調査(19種)を2倍近く上回った。

以上から、前回調査時に比べ、分布域が増えたと見られる種は冬季に観察される鳥のほうが多く、分布域が減ったと見られる種は夏季に観察される鳥のほうが多いことが示された。

参考までに、夏・冬鳥調査で分布域の割合が増加した鳥上位10種を表7、減少した鳥上位10種を表8に示した。

表7 分布域の割合が増加した上位10種

順位	種名	今回		前回		割合比 ①/②
		記録メッシュ数	割合% ①	記録メッシュ数	割合% ②	
1	ツミ	18	19.8	4	3.3	6.00
2	カワウ	55	60.4	13	10.8	5.59
3	ハヤブサ	8	8.8	2	1.7	5.18
4	アオサギ	50	54.9	16	13.3	4.13
5	オオタカ	22	24.2	9	7.5	3.23
6	チョウゲンボウ	28	30.8	13	10.8	2.85
7	ノスリ	8	8.8	4	3.3	2.67
8	オシドリ	4	4.4	2	1.7	2.59
9	エゾムシクイ	7	7.7	4	3.3	2.33
10	ゴジュウカラ	3	3.3	2	1.7	1.94

順位	種名	今回		前回		割合比 ①/②
		記録メッシュ数	割合% ①	記録メッシュ数	割合% ②	
1	ベニマシコ	26	27.7	8	7.2	3.85
2	アオバト	3	3.2	1	0.9	3.56
3	ツミ	11	11.7	4	3.6	3.25
4	ヒメアマツバメ	5	5.3	2	1.8	2.94
5	アリスイ	7	7.4	3	2.7	2.74
6	ホオジロガモ	8	8.5	4	3.6	2.36
7	カワガラス	2	2.1	1	0.9	2.33
8	カワウ	63	67.0	35	31.5	2.13
9	ミコアイサ	16	17.0	9	8.1	2.10
10	バン	28	29.8	18	16.2	1.84

表8 分布域の割合が減少した上位10種

夏鳥調査		今回		前回		割合比 ①/②
順位	種名	記録メツ シュ数	割合% ①	記録メツ シュ数	割合% ②	
1	タシギ	1	1.1	18	15.0	0.07
2	ヒクイナ	1	1.1	10	8.3	0.13
3	ツグミ	3	3.3	24	20.0	0.17
4	コヨシキリ	2	2.2	14	11.7	0.19
4	コムドリ	2	2.2	14	11.7	0.19
4	タマシギ	2	2.2	14	11.7	0.19
7	ヨタカ	2	2.2	13	10.8	0.20
8	サシバ	3	3.3	19	15.8	0.21
9	アマツバメ	3	3.3	18	15.0	0.22
10	タヒバリ	1	1.1	6	5.0	0.22

冬鳥調査		今回		前回		割合比 ①/②
順位	種名	記録メツ シュ数	割合% ①	記録メツ シュ数	割合% ②	
1	ハマシギ	1	1.1	24	21.6	0.05
2	シロチドリ	1	1.1	16	14.4	0.08
3	ウズラ	1	1.1	7	6.3	0.17
4	ゴジュウカラ	1	1.1	6	5.4	0.20
5	タカブシギ	2	2.1	10	9.0	0.23
6	ヤマセミ	2	2.1	9	8.1	0.26
7	コチドリ	7	7.4	30	27.0	0.27
8	クサシギ	5	5.3	21	18.9	0.28
9	ヒガラ	6	6.4	25	22.5	0.28
10	シラコバト	13	13.8	38	34.2	0.40

7. 謝辞

情報を提供していただいた202名の方々に深く感謝いたします。

8. おわりに

調査が終了してから報告まで7年経過した。本報告も現状とは異なる部分が生じていると思

われる。将来、同様の調査が継続的に行われることを期待したい。(執筆：小林みどり、小荷田行男、石井 智、森本國夫)

文 献

- 1) 研究部, 埼玉県野鳥分布調査報告 -1985年～1990年-, しらこぼと 増刊号 No.107, 28p, 1993
- 2) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査にご協力を!! , しらこぼと No.253, 5, 2005
- 3) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2005年夏報告 埼玉県内におけるガビチョウの今, しらこぼと No.260, 4, 2005
- 4) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2005/2006年冬 埼玉県内におけるミヤマガラスの今, しらこぼと No.265, 4, 2006
- 5) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2006年夏サシバの今, しらこぼと No.271, 4, 2006
- 6) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2006/2007年冬 ホオアカの今, しらこぼと No.277, 4, 2007
- 7) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2007年夏コアジサシの今, しらこぼと No.284, 4, 2007
- 8) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2007/2008年冬 報告(注目種シラコバト), しらこぼと No.289, 3, 2008
- 9) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2008年度シラコバトの生息, しらこぼと No.296, 4, 2008
- 10) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2008/09年冬 ユリカモメの生息, しらこぼと No.301, 4, 2009
- 11) 研究部, 第2次県内野鳥分布調査 2009年夏 カッコウの生態, しらこぼと No.308, 4, 2009

要 旨

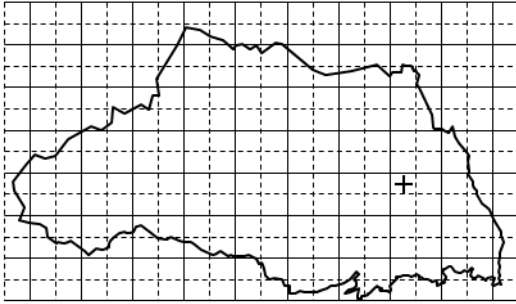
1. 調査方法

2005年5月から2010年1月の期間で、夏鳥調査を5月10日から7月10日まで5回、冬鳥調査を12月1日から翌年1月31日まで5回行った。その結果を同様の方法で1985年5月から1990年1月の期間で行った前回の調査結果と比較した。

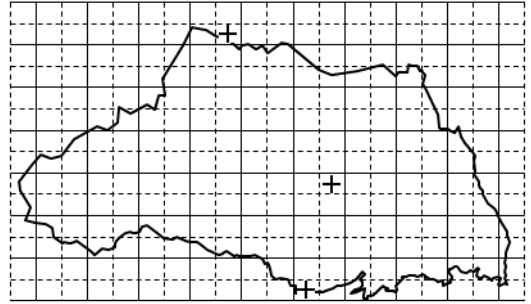
2. 結果

今回の調査期間においては、前回の調査期間に比べ、分布域が増えたと見られる種は冬季に観察される鳥のほうが多く、分布域が減ったと見られる種は夏季に観察される鳥のほうが多いことが示された。

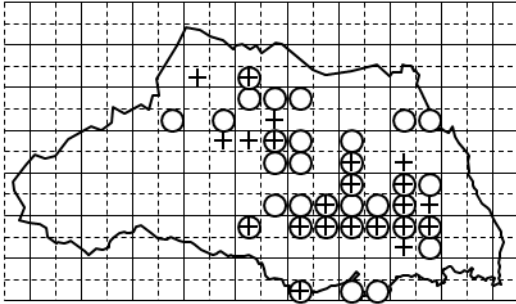
1. ウズラ



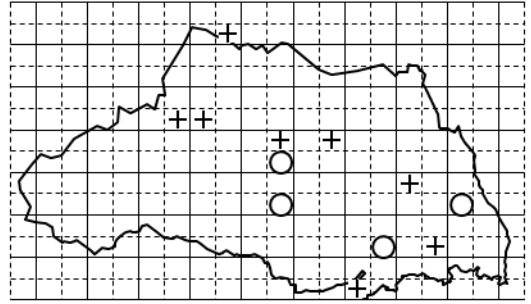
5. オオハクチョウ



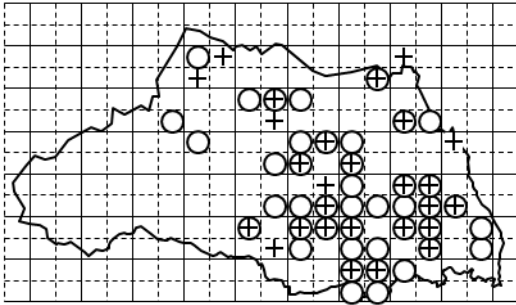
2. コジュケイ



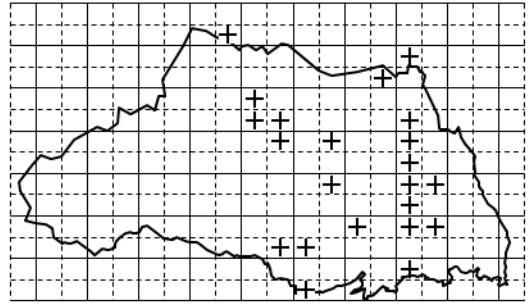
6. オンドリ



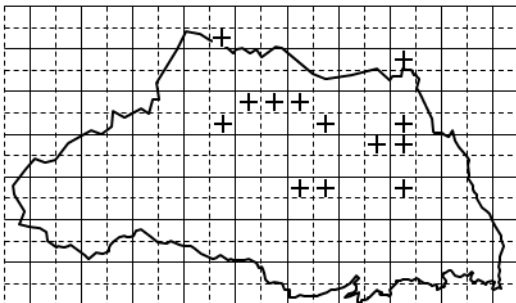
3. キジ



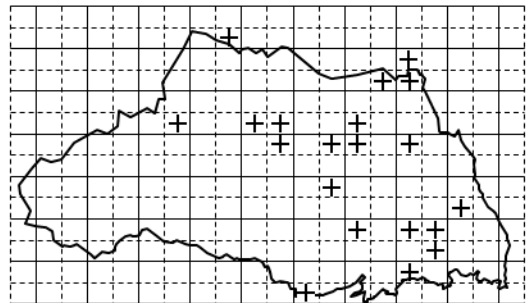
7. オカヨシガモ



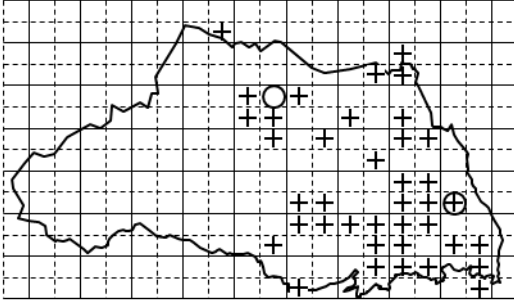
4. コハクチョウ



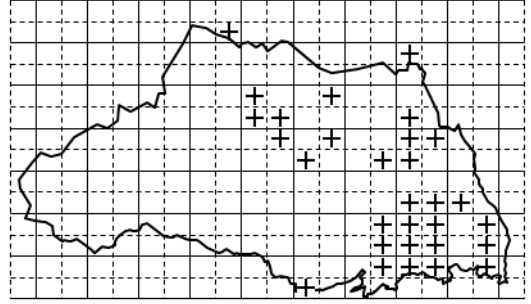
8. ヨシガモ



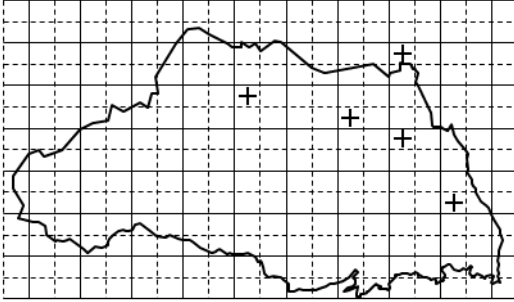
9. ヒドリガモ



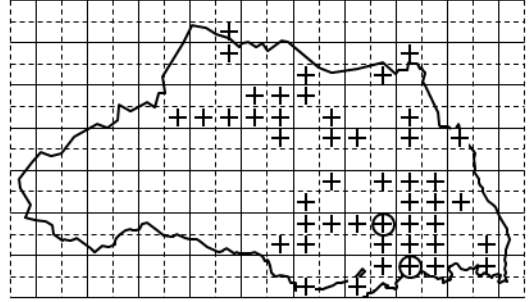
13. ハシビロガモ



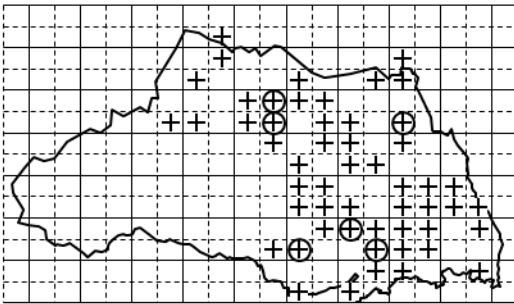
10. アメリカヒドリ



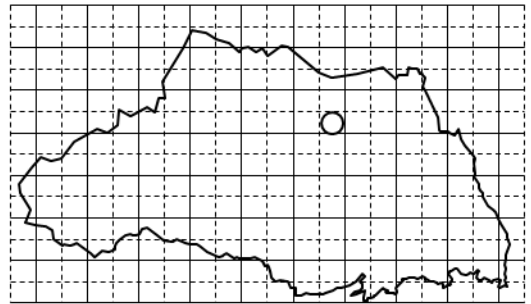
14. オナガガモ



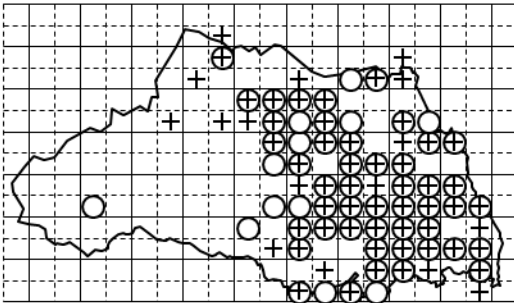
11. マガモ



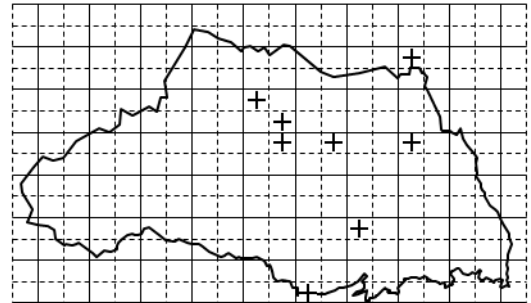
15. シマアジ



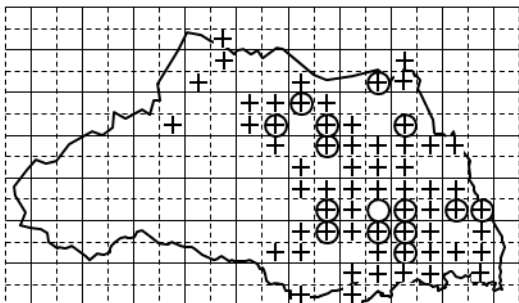
12. カルガモ



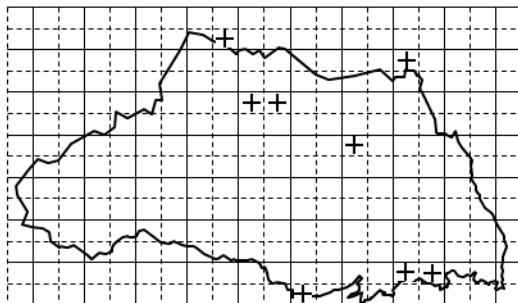
16. トモエガモ



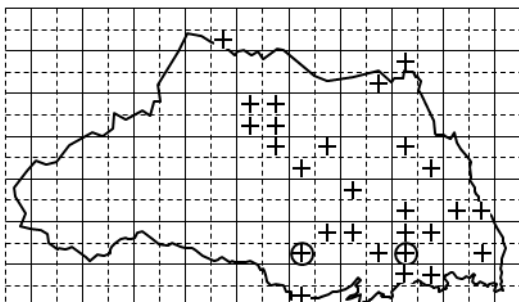
17. コガモ



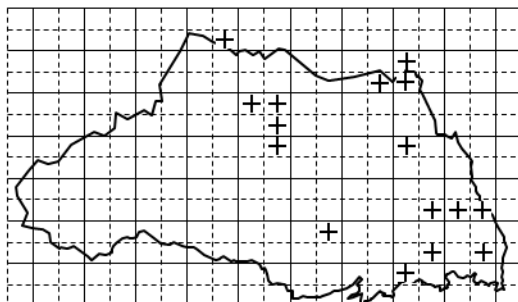
21. ホオジロガモ



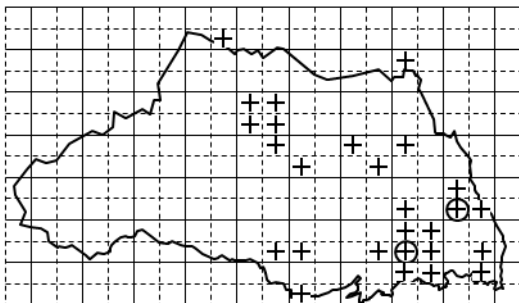
18. ホシハジロ



22. ミコアイサ



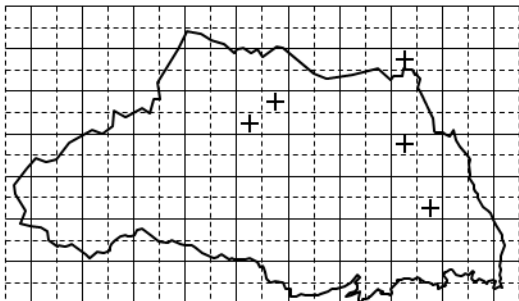
19. キンクロハジロ



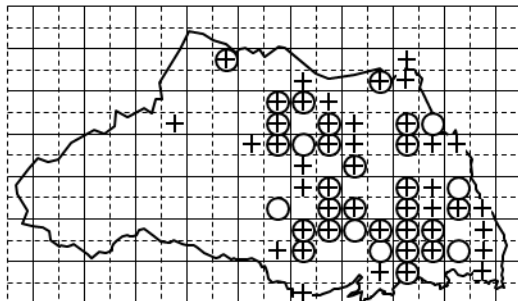
23. カワアイサ



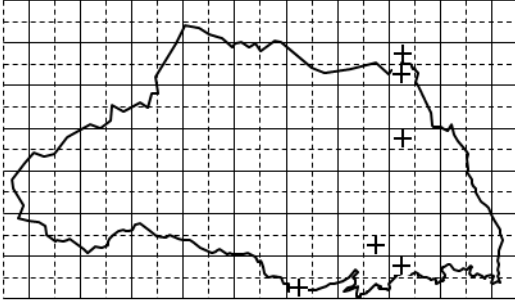
20. スズガモ



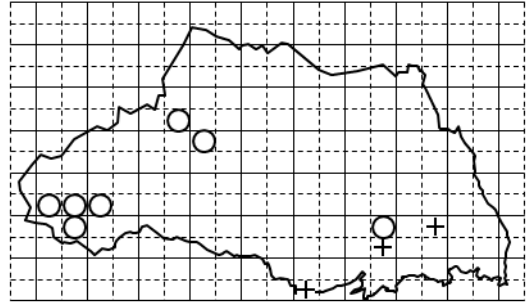
24. カイツブリ



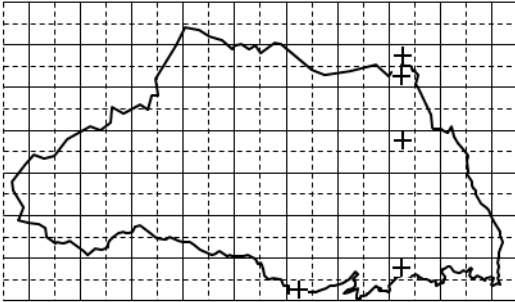
25. カンムリカイツブリ



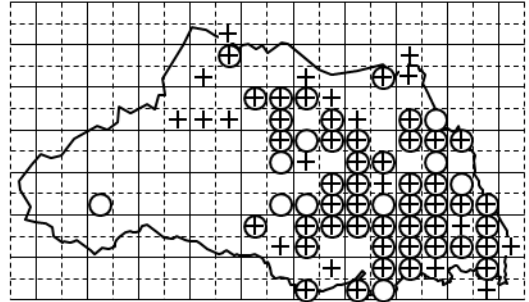
29. アオバト



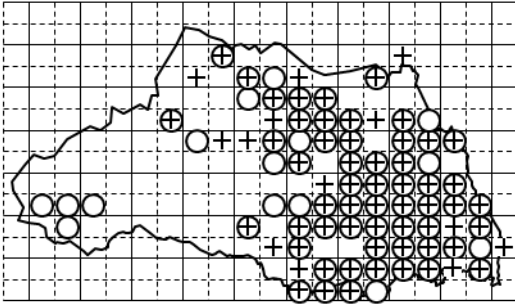
26. ハジロカイツブリ



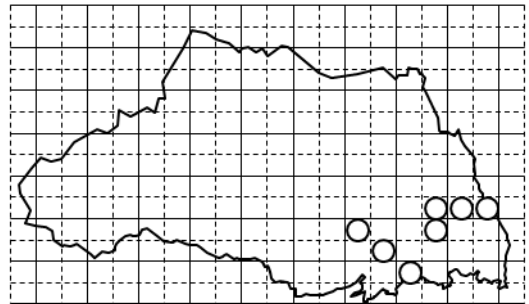
30. カワウ



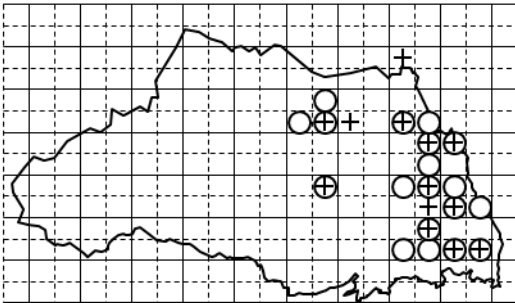
27. キジバト



31. ヨシゴイ



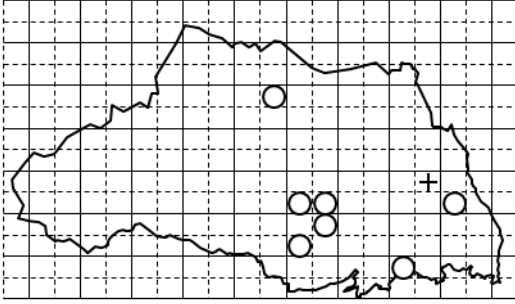
28. シラコバト



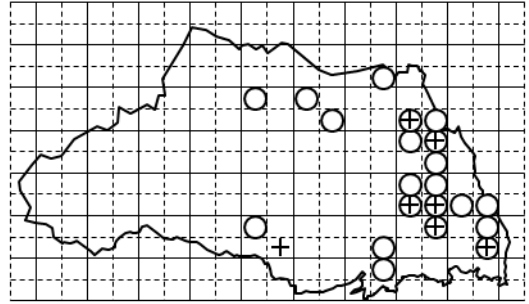
32. ゴイサギ



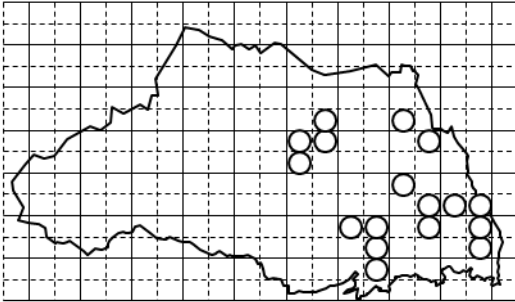
33. ササゴイ



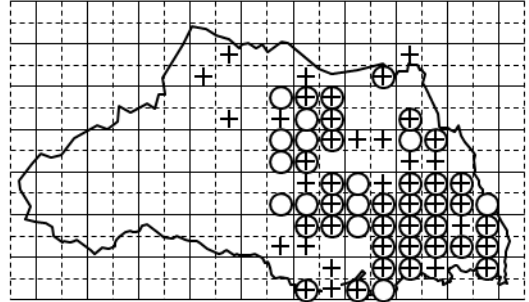
37. チュウサギ



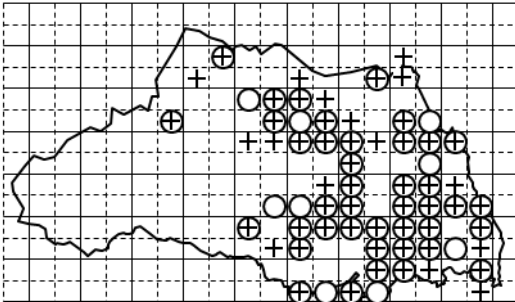
34. アマサギ



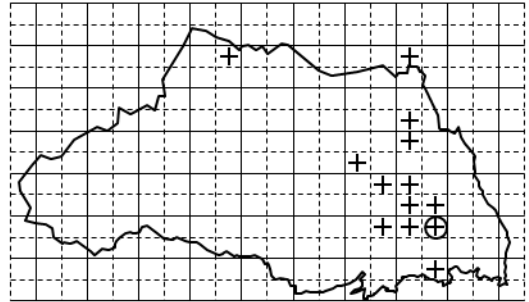
38. コサギ



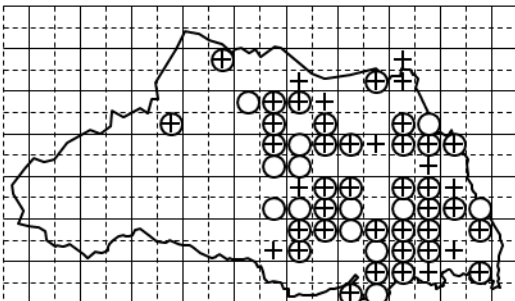
35. アオサギ



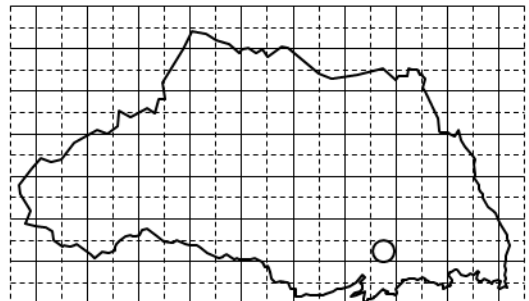
39. クイナ



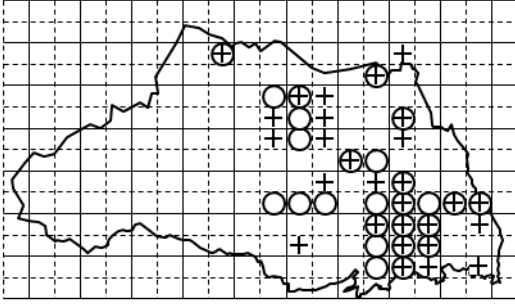
36. ダイサギ



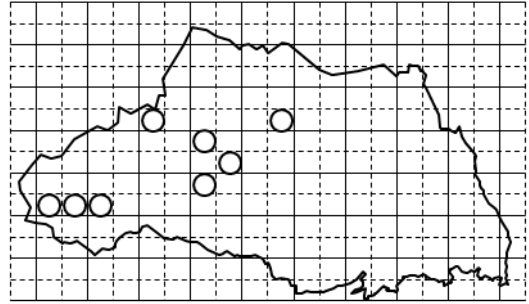
40. ヒクイナ



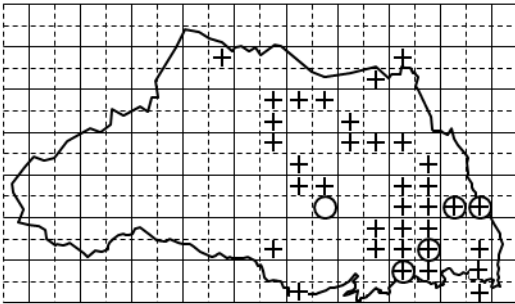
41. バン



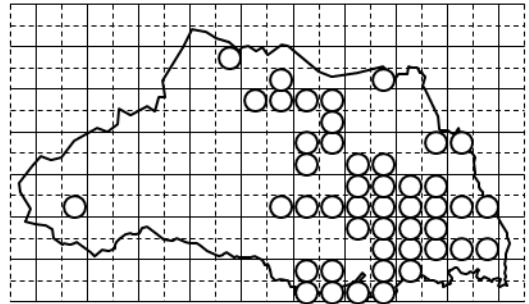
45. ツツドリ



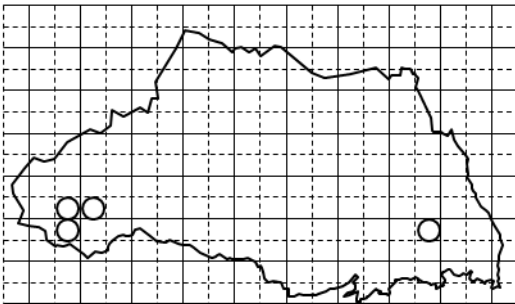
42. オオバン



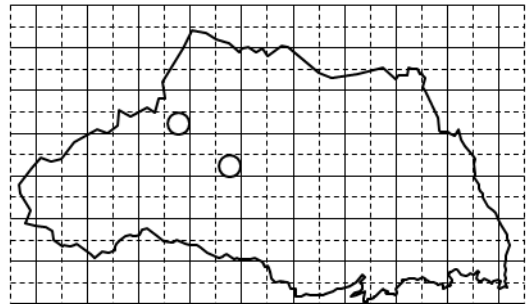
46. カッコウ



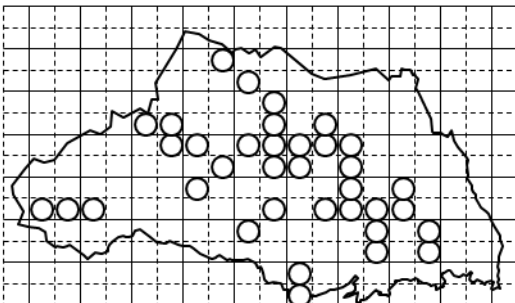
43. ジュウイチ



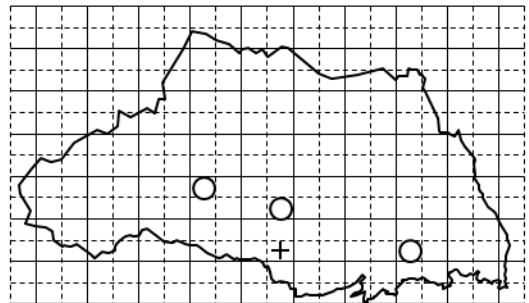
47. ヨタカ



44. ホトトギス



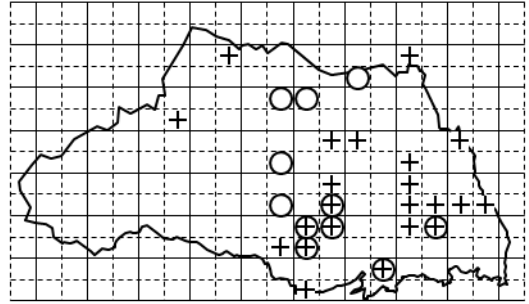
48. アマツバメ



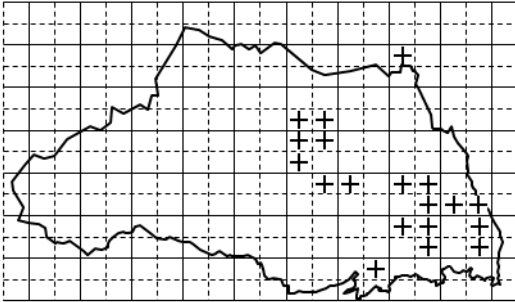
49. ヒメアマツバメ



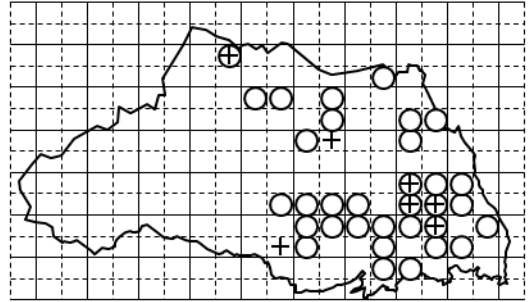
53. イカルチドリ



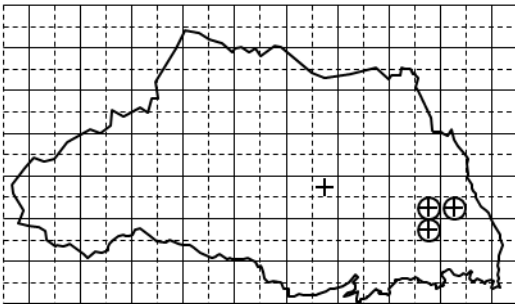
50. タゲリ



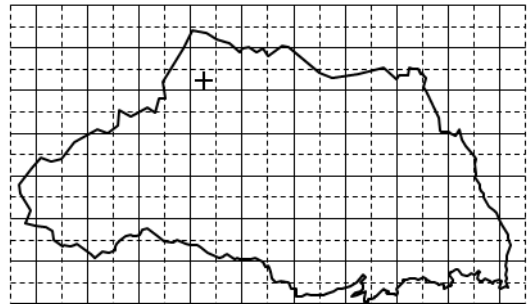
54. コチドリ



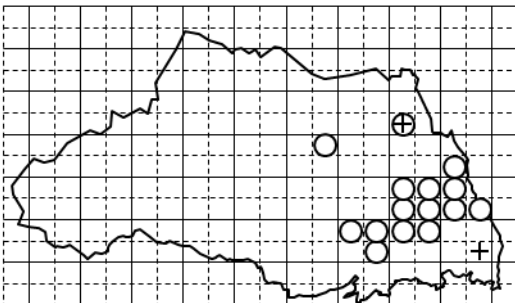
51. ケリ



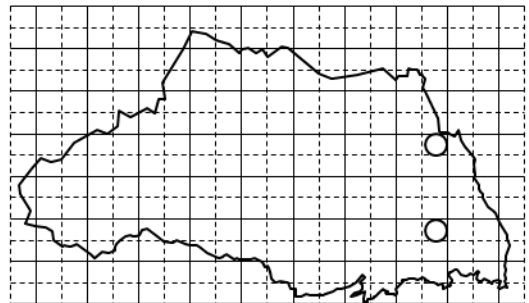
55. シロチドリ



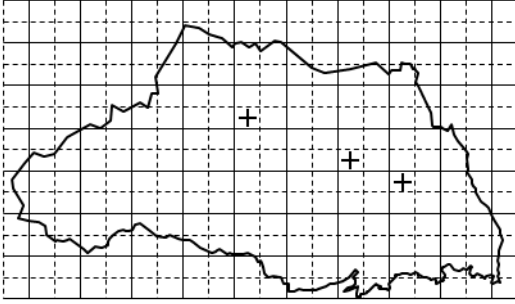
52. ムナグロ



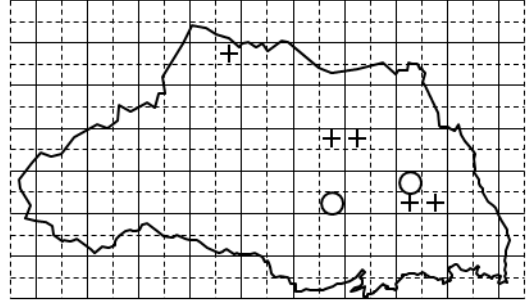
56. セイタカシギ



57. ヤマシギ



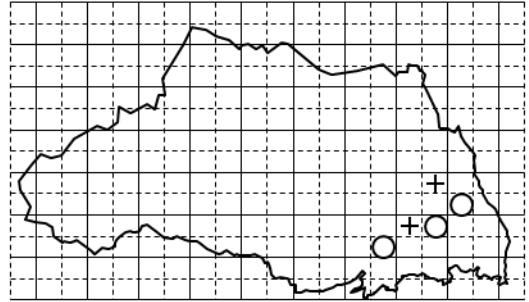
61. クサシギ



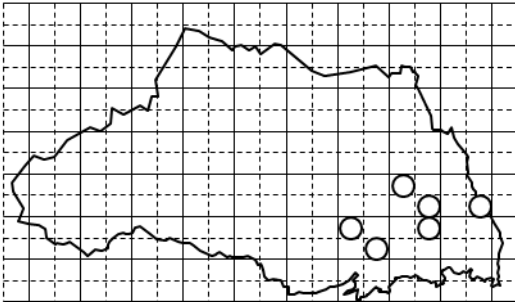
58. タシギ



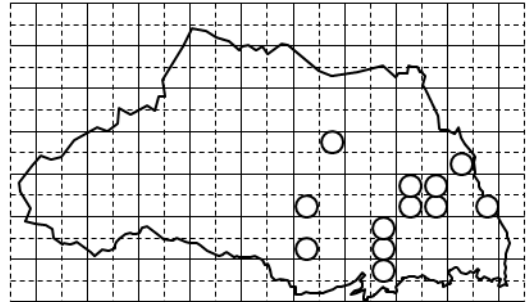
62. タカブシギ



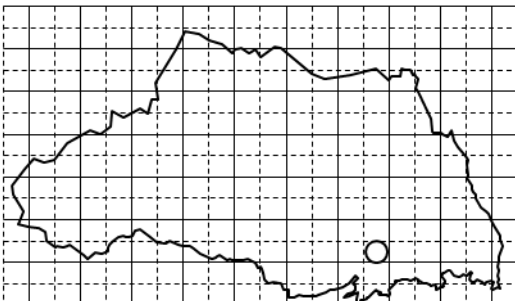
59. チュウシャクシギ



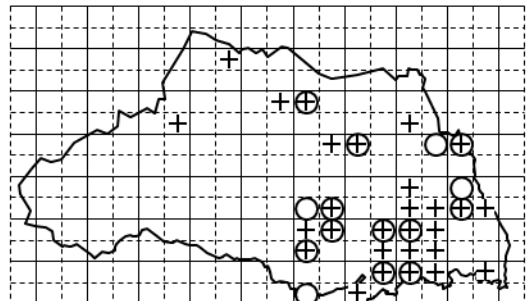
63. キアシシギ



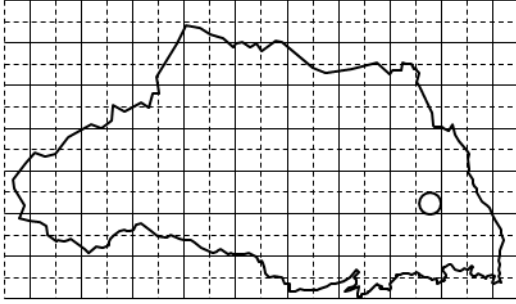
60. アオアシシギ



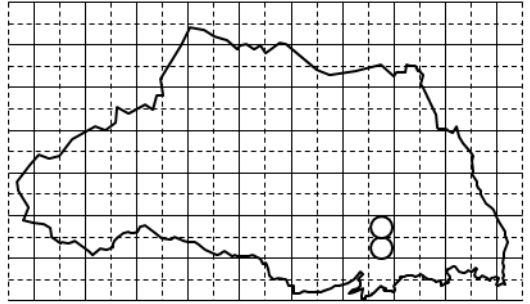
64. イソシギ



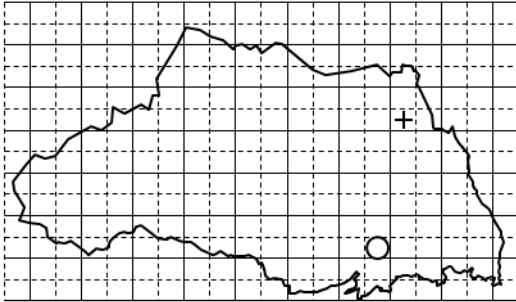
65. キョウジョシギ



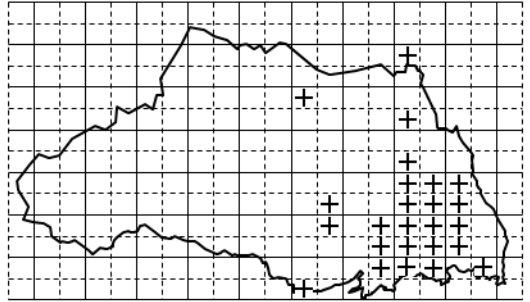
69. ツバメチドリ



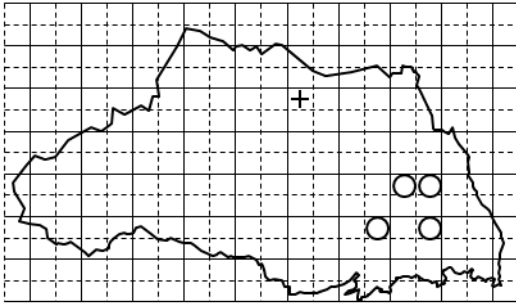
66. トウネン



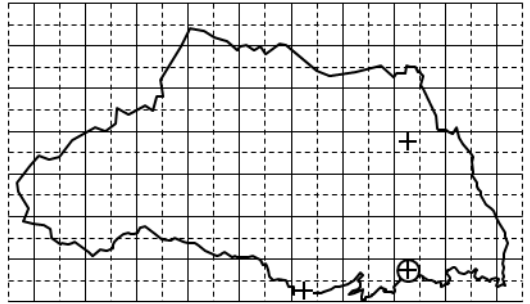
70. ユリカモメ



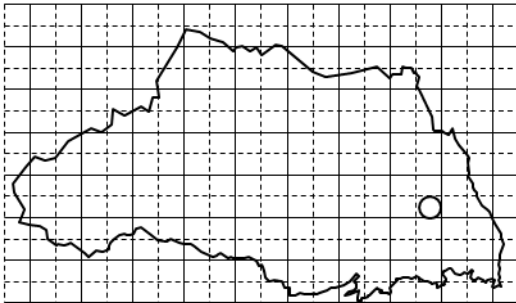
67. ハマシギ



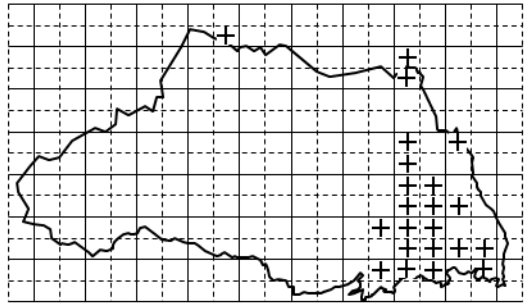
71. ウミネコ



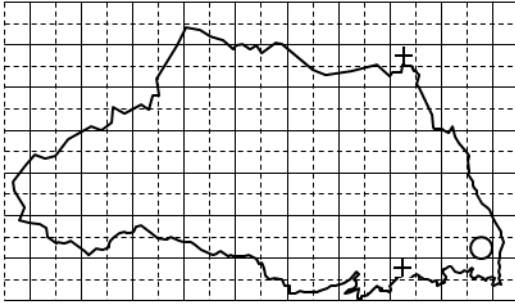
68. タマシギ



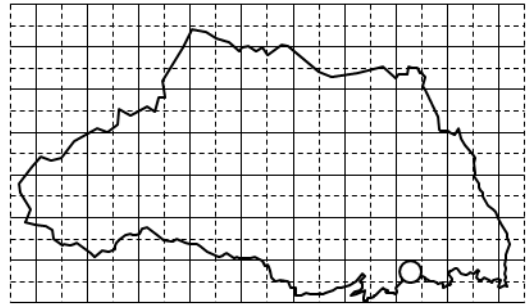
72. セグロカモメ



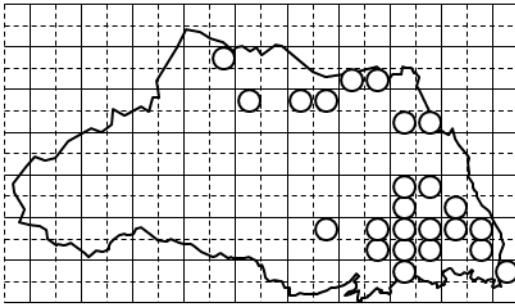
73. オオセグロカモメ



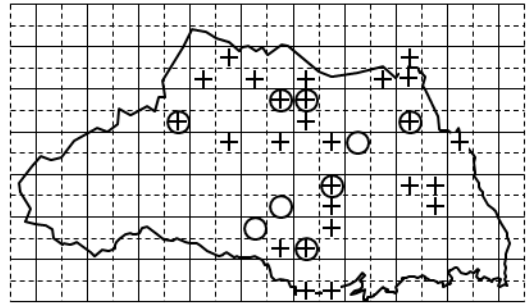
77. ハチクマ



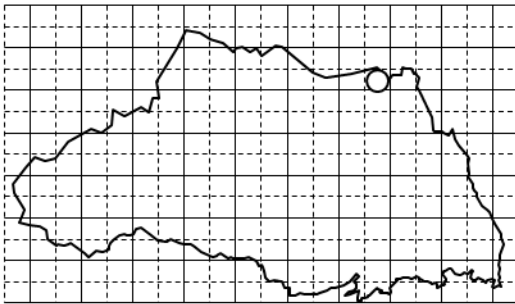
74. コアジサシ



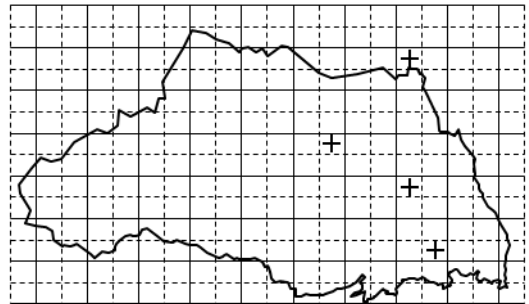
78. トビ



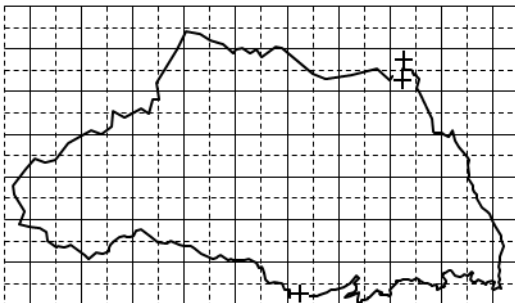
75. アジサシ



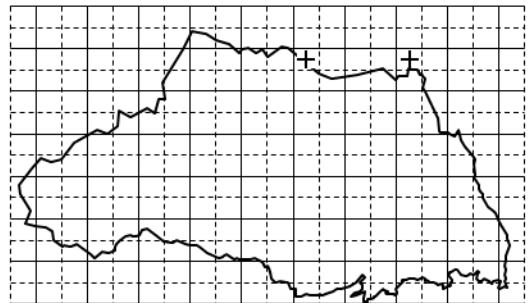
79. チュウヒ



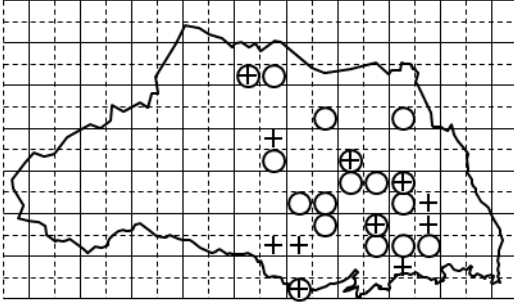
76. ミサゴ



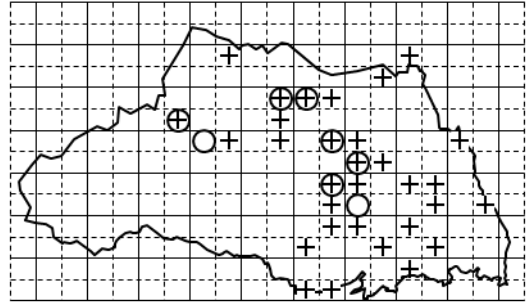
80. ハイロチュウヒ



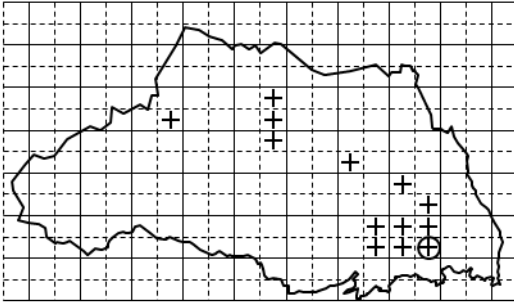
81. ツミ



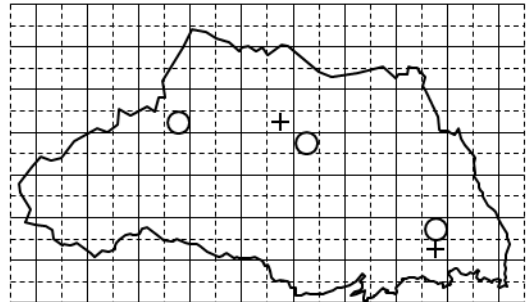
85. ノスリ



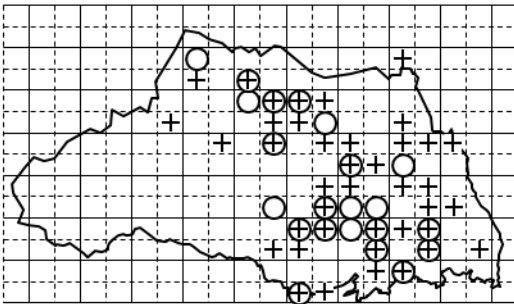
82. ハイタカ



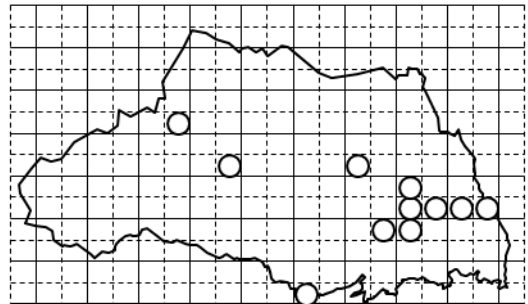
86. フクロウ



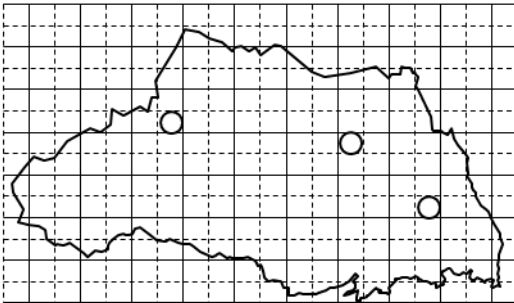
83. オオタカ



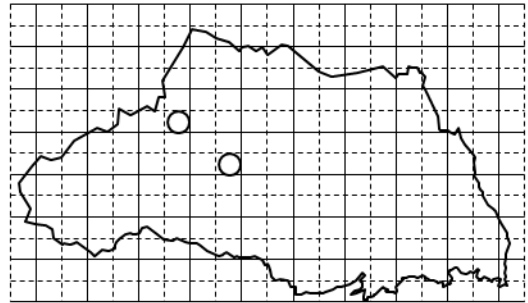
87. アオバズク



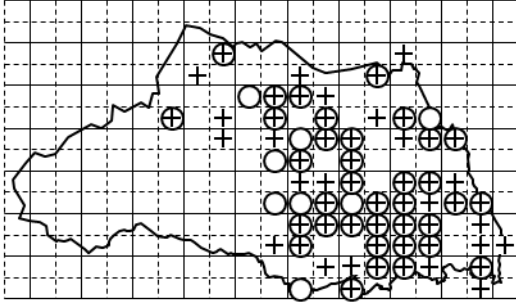
84. サシバ



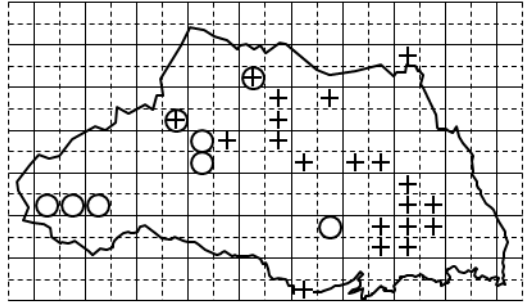
88. アカショウビン



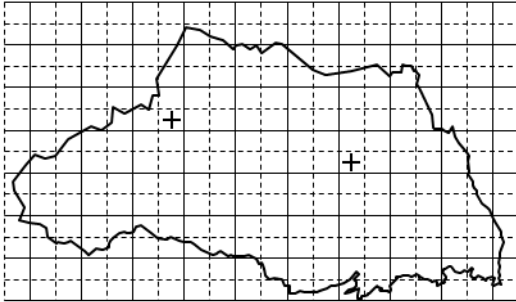
89. カワセミ



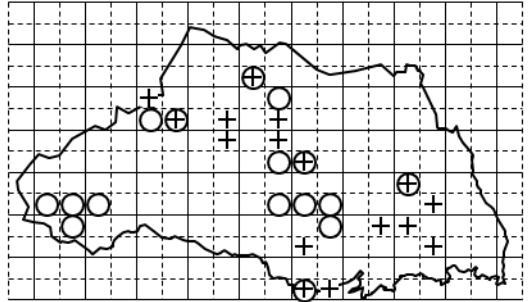
93. アカゲラ



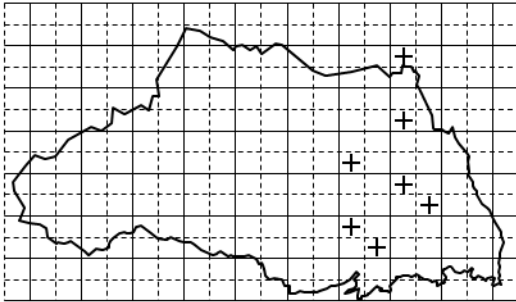
90. ヤマセミ



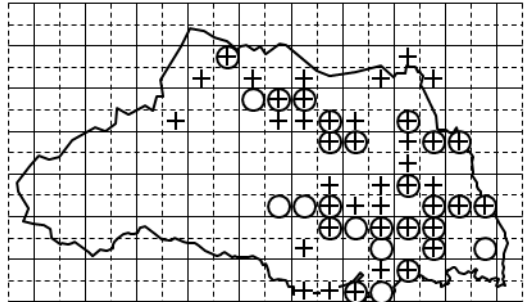
94. アオゲラ



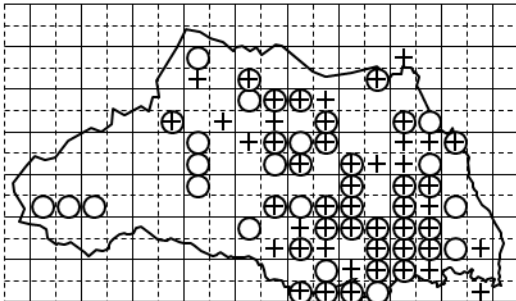
91. アリスイ



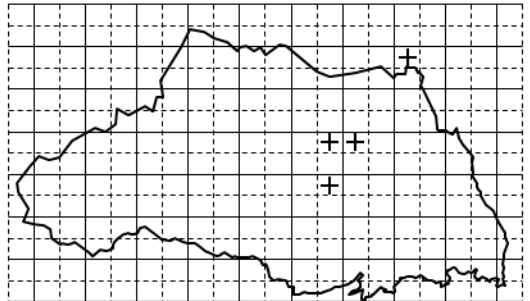
95. チョウゲンボウ



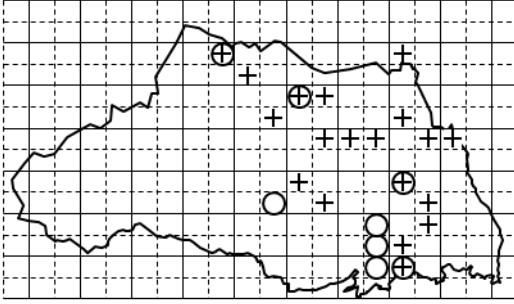
92. コゲラ



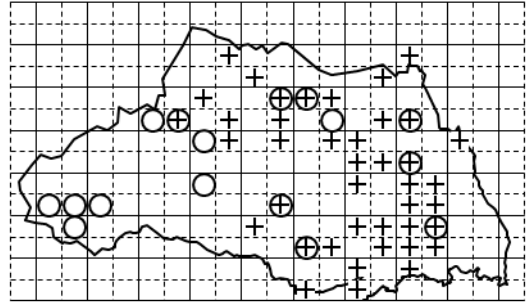
96. コチョウゲンボウ



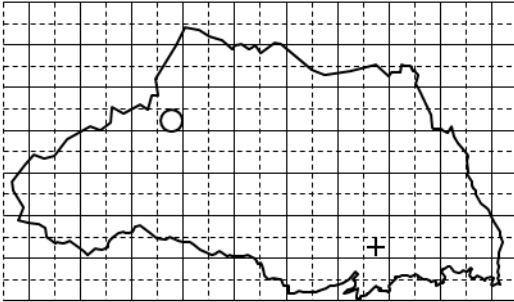
97. ハヤブサ



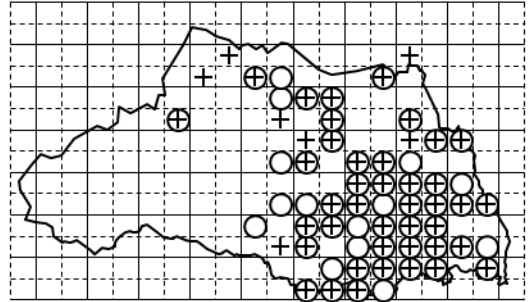
101. カケス



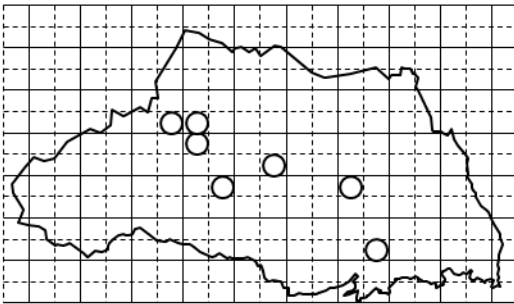
98. サンショウクイ



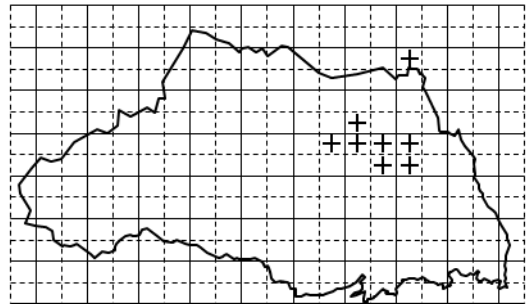
102. オナガ



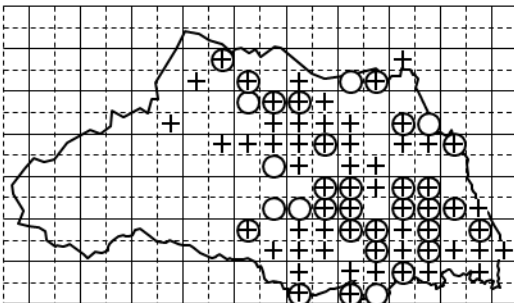
99. サンコウチョウ



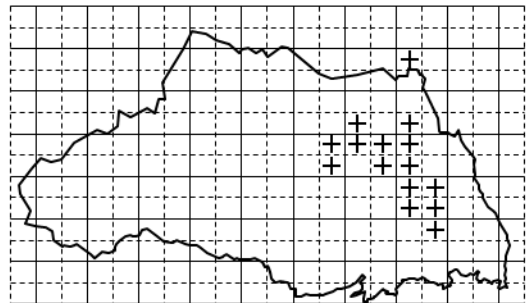
103. コクマルガラス



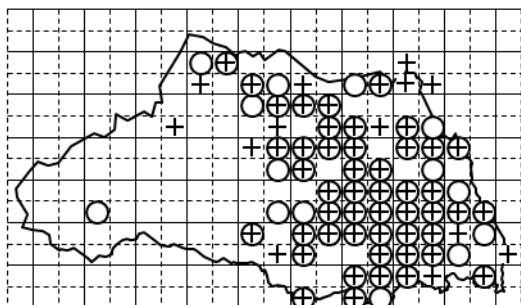
100. モズ



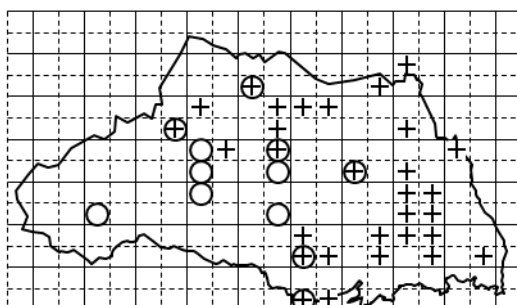
104. ミヤマガラス



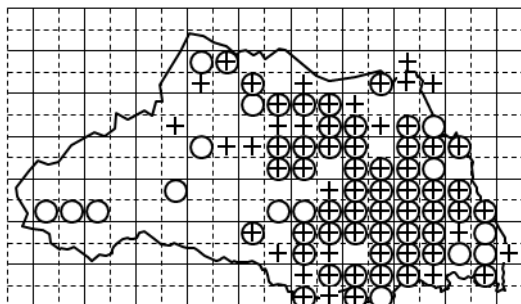
105. ハシボソガラス



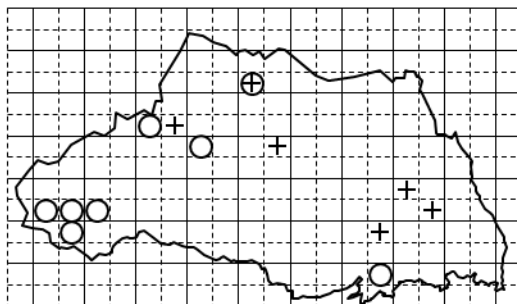
109. ヤマガラ



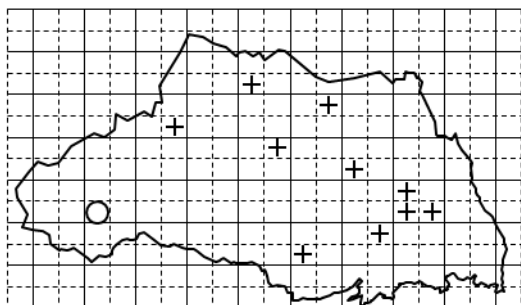
106. ハシブトガラス



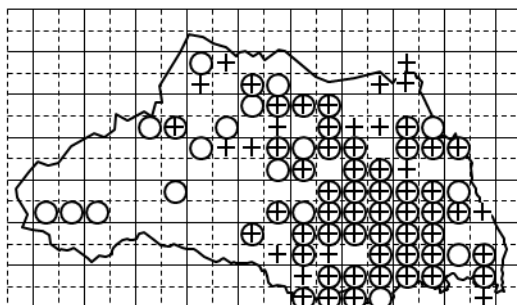
110. ヒガラ



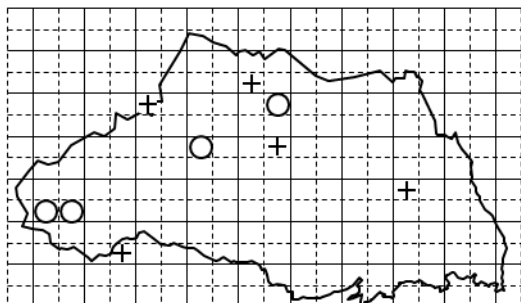
107. キクイタダキ



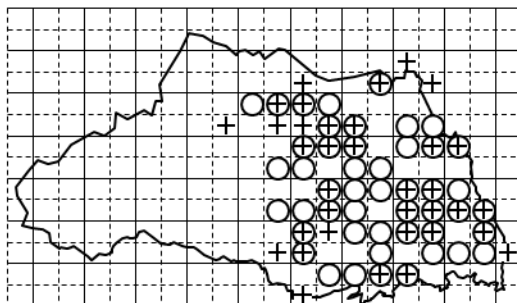
111. シジュウカラ



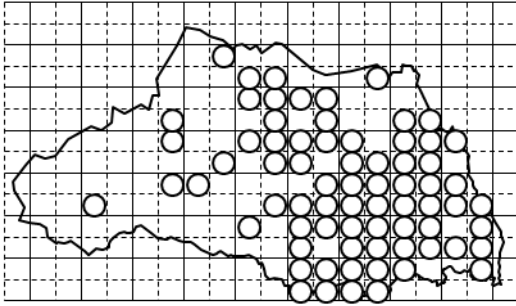
108. コガラ



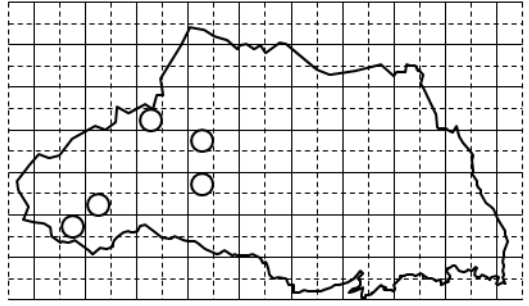
112. ヒバリ



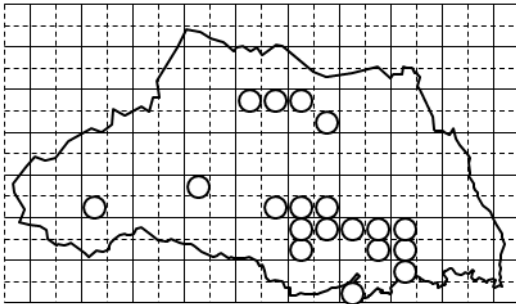
113. ツバメ



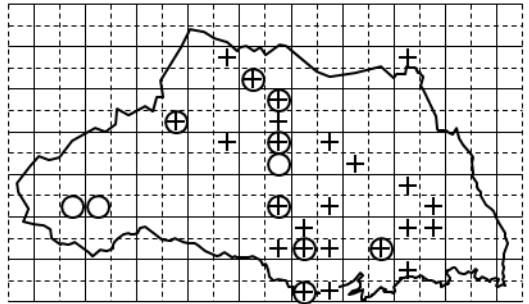
117. ヤブサメ



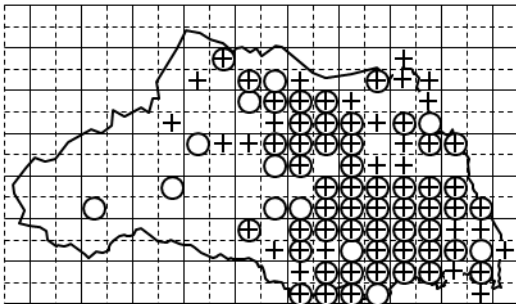
114. イワツバメ



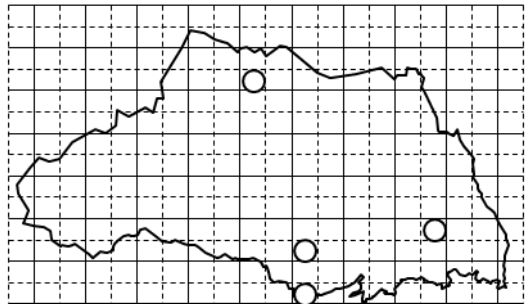
118. エナガ



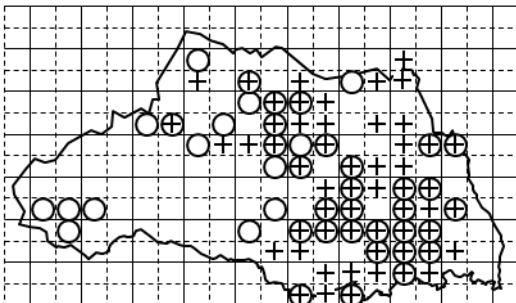
115. ヒヨドリ



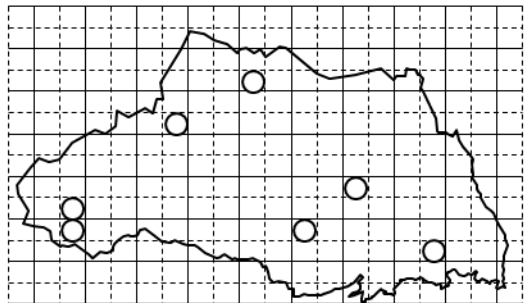
119. メボソムシクイ



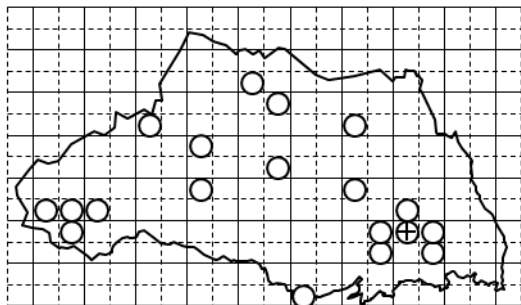
116. ウグイス



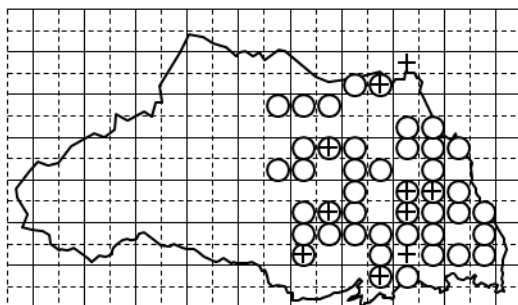
120. エゾムシクイ



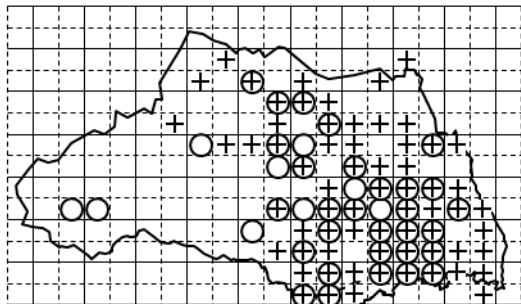
121. センダイムシクイ



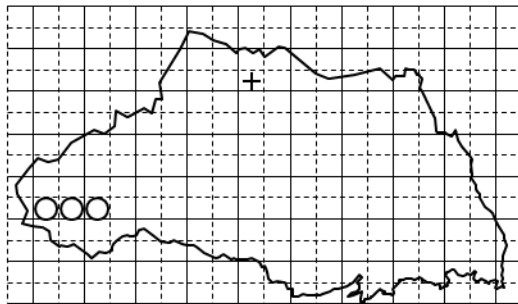
125. セッカ



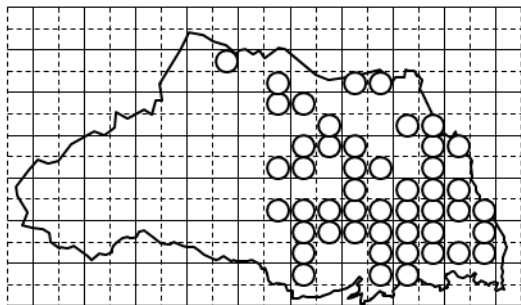
122. メジロ



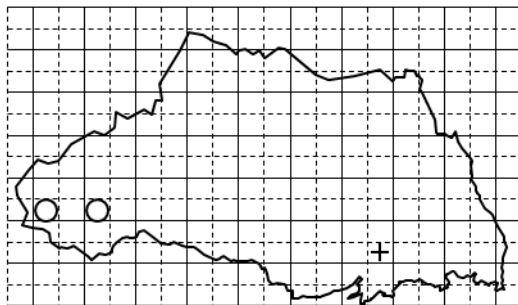
126. ゴジュウカラ



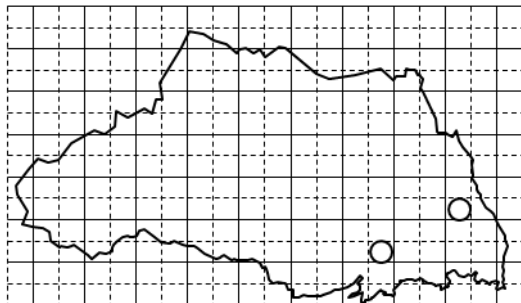
123. オオヨシキリ



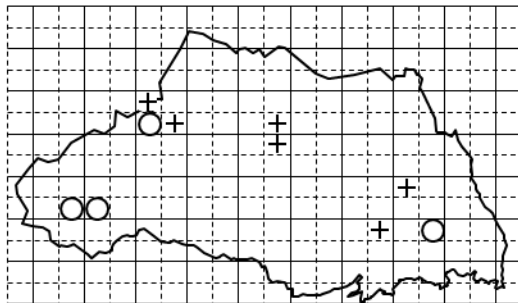
127. キバシリ



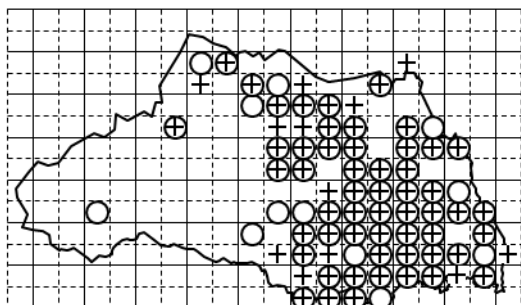
124. コヨシキリ



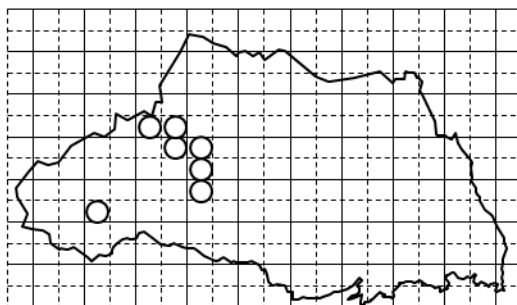
128. ミソサザイ



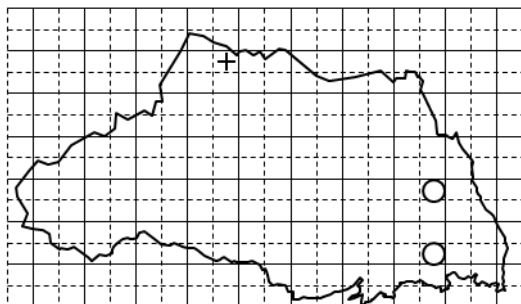
129. ムクドリ



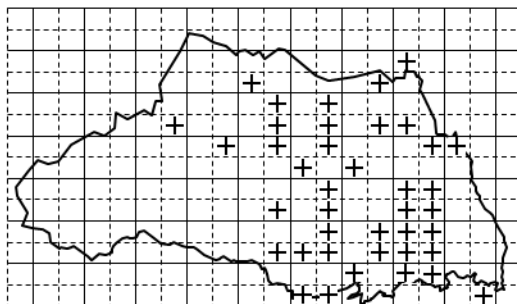
133. クロツグミ



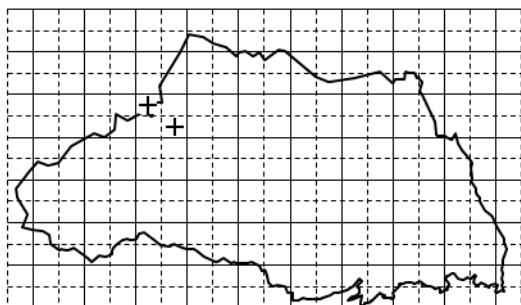
130. コムクドリ



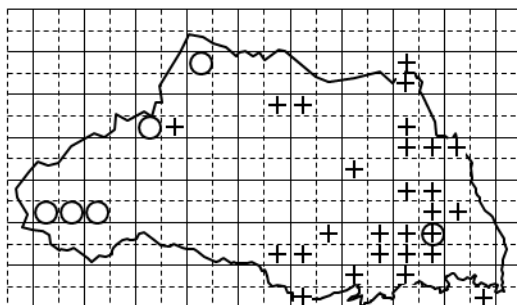
134. シロハラ



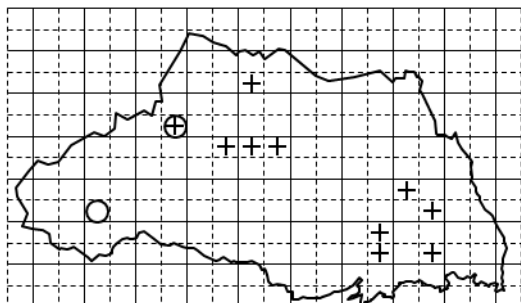
131. カワガラス



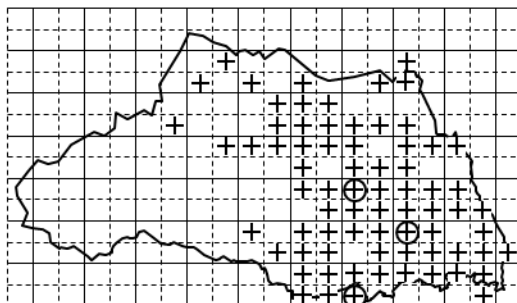
135. アカハラ



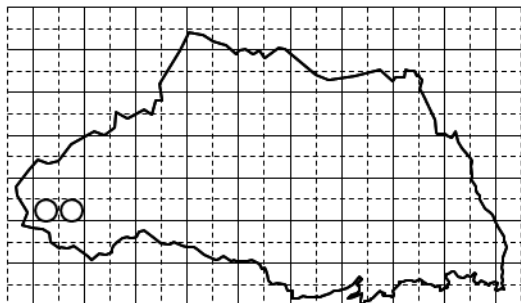
132. トラツグミ



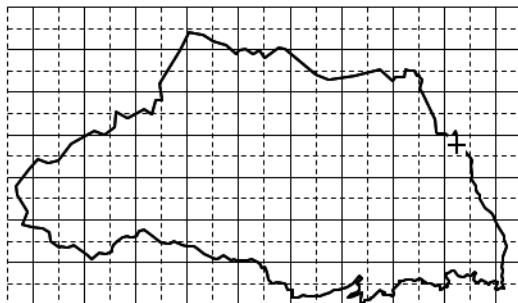
136. ツグミ



137. コマドリ



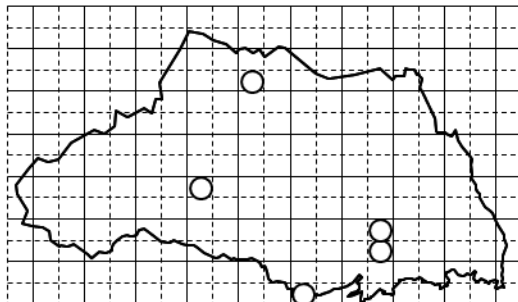
141. イソヒヨドリ



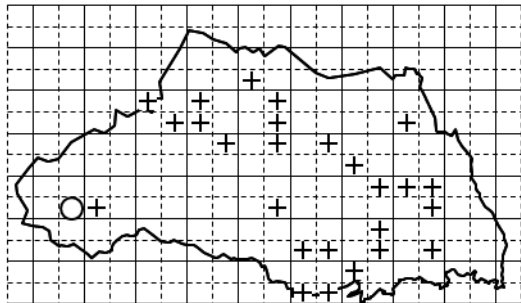
138. コルリ



142. コサメビタキ



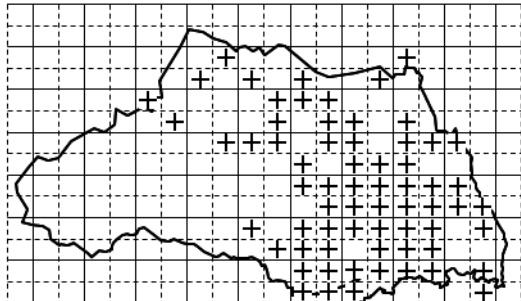
139. ルリビタキ



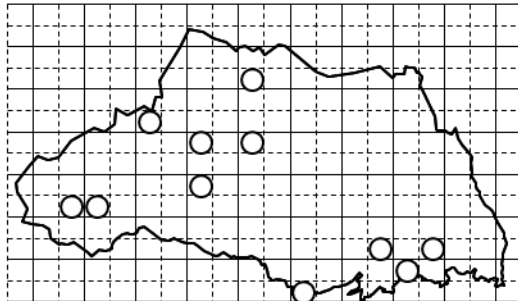
143. キビタキ



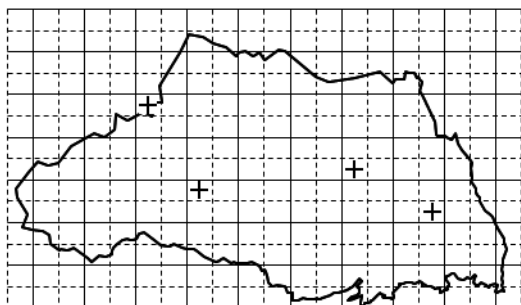
140. ジョウビタキ



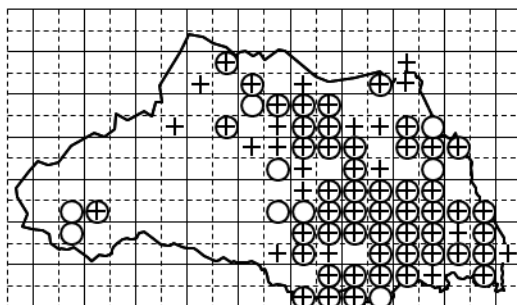
144. オオルリ



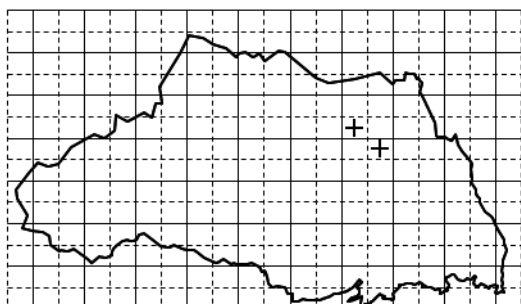
145. カヤクグリ



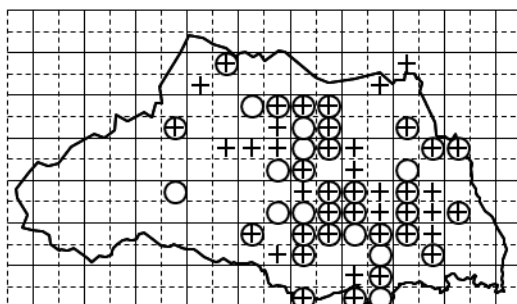
149. ハクセキレイ



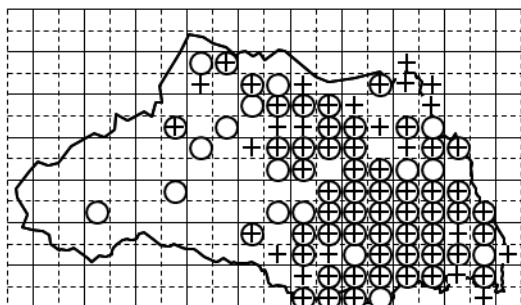
146. ニュウナイスズメ



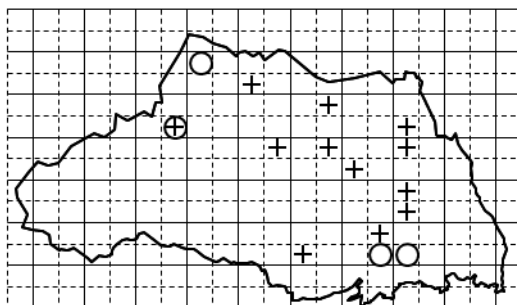
150. セグロセキレイ



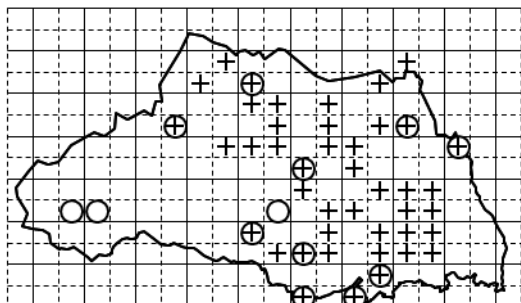
147. スズメ



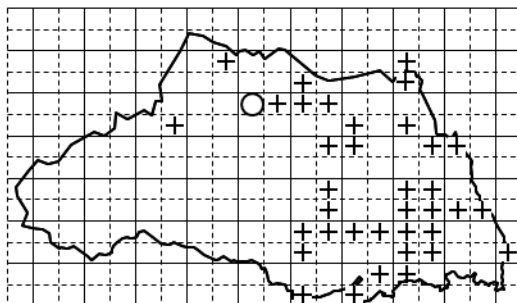
151. ビンズイ



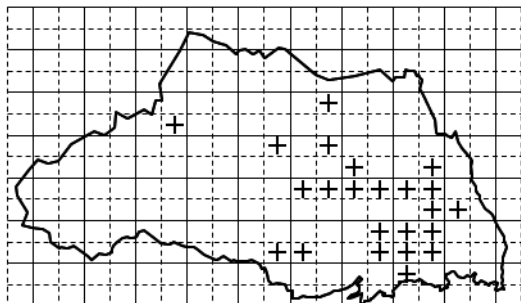
148. キセキレイ



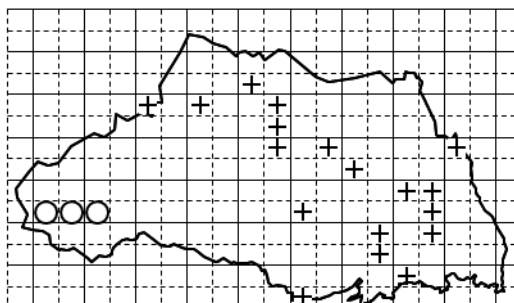
152. タヒバリ



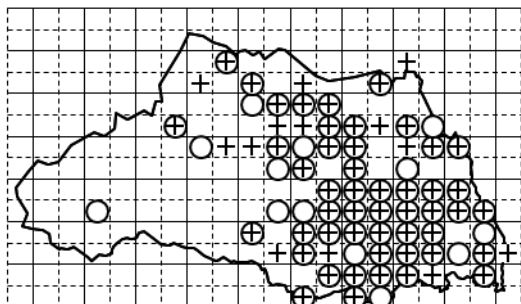
153. アトリ



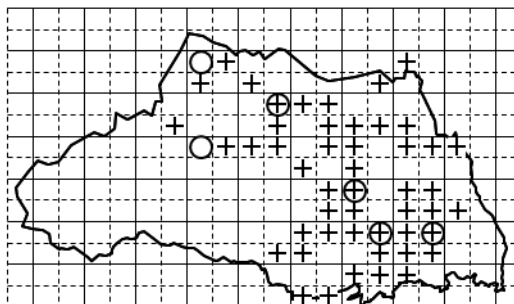
157. ウソ



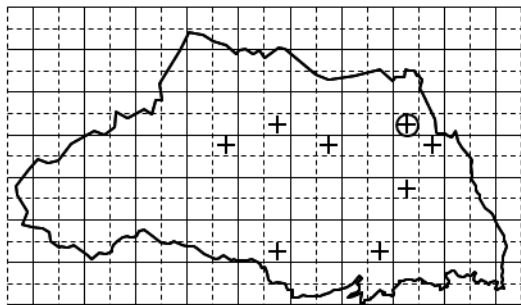
154. カワラヒワ



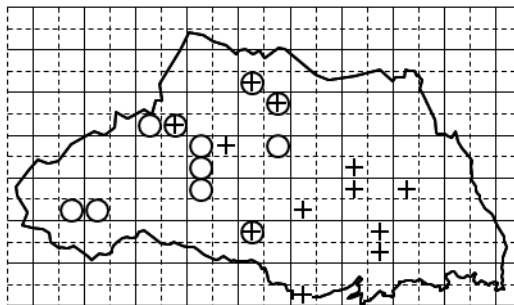
158. シメ



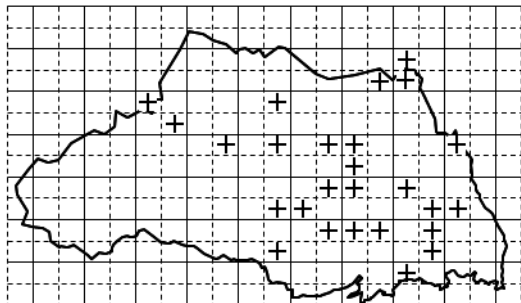
155. マヒワ



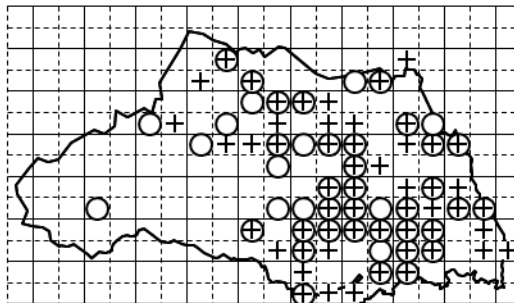
159. イカル



156. ベニマシコ



160. ホオジロ



野鳥分布図の索引

【ア】		
アオアシシギ	13	
アオゲラ	17	
アオサギ	10	
アオジ	26	
アオバズク	16	
アオバト	9	
アカゲラ	17	
アカショウビン	16	
アカハラ	22	
アジサシ	15	
アトリ	25	
アマサギ	10	
アマツバメ	11	
アメリカヒドリ	7	
アリスイ	17	
イカル	25	
イカルチドリ	12	
イソシギ	13	
イソヒヨドリ	23	
イワツバメ	20	
ウグイス	20	
ウズラ	6	
ウソ	25	
ウミネコ	14	
エゾムシクイ	20	
エナガ	20	
オオジュリン	26	
オオセグロカモメ	15	
オオタカ	16	
オオハクチョウ	6	
オオバン	11	
オオヨシキリ	21	
オオルリ	23	
オカヨシガモ	6	
オシドリ	6	
オナガ	18	
オナガガモ	7	
【カ】		
カイツブリ	8	
カケス	18	
カシラダカ	26	
カッコウ	11	
ガビチョウ(番外)	26	
カヤクグリ	24	
カルガモ	7	
カワアイサ	8	
カワウ	9	
カワガラス	22	
カワセミ	17	
カワラヒワ	25	
カンムリカイツブリ	9	
キアシシギ	13	
キクイタダキ	19	
キジ	6	
キジバト	9	
キセキレイ	24	
キバシリ	21	
キビタキ	23	
キョウジョシギ	14	
キンクロハジロ	8	
クイナ	10	
クサシギ	13	
クロジ	26	
クロツグミ	22	
ケリ	12	
コアシサシ	15	
ゴイサギ	9	
コガモ	8	
コガラ	19	
コクマルガラス	18	
コゲラ	17	
コサギ	10	
コサメビタキ	23	
ゴジュウカラ	21	
コジュケイ	6	
コチドリ	12	
コチヨウゲンボウ	17	
コハクチョウ	6	
コマドリ	23	
コムクドリ	22	
コヨシキリ	21	
コルリ	23	
【サ】		
ササゴイ	10	
サシバ	16	
サンコウチョウ	18	
サンショウクイ	18	
シジュウカラ	19	
シマアジ	7	
シメ	25	
ジュウイチ	11	
ジョウビタキ	23	
シラコバト	9	
シロチドリ	12	
シロハラ	22	
スズガモ	8	
スズメ	24	
セイタカシギ	12	
セグロカモメ	14	
セグロセキレイ	24	
セッカ	21	

センダイムシクイ 21	【ハ】	ホトトギス 11
ソウシチョウ(番外) .. 26	ハイイロチュウヒ 15	【マ】
【タ】	ハイタカ 16	マガモ 7
ダイサギ 10	ハクセキレイ 24	マヒワ 25
タカブシギ 13	ハシビロガモ 7	ミコアイサ 8
タゲリ 12	ハシブトガラス 19	ミサゴ 15
タシギ 13	ハシボソガラス 19	ミソサザイ 21
タヒバリ 24	ハジロカイツブリ 9	ミヤマガラス 18
タマシギ 14	ハチクマ 15	ミヤマホオジロ 26
チュウサギ 10	ハマシギ 14	ムクドリ 22
チュウシャクシギ 13	ハヤブサ 18	ムナグロ 12
チュウヒ 15	バン 11	メジロ 21
チョウゲンボウ 17	ヒガラ 19	メボソムシクイ 20
ツグミ 22	ヒクイナ 10	モズ 18
ツツドリ 11	ヒドリガモ 7	【ヤ】
ツバメ 20	ヒバリ 19	ヤブサメ 20
ツバメチドリ 14	ヒメアマツバメ 12	ヤマガラ 19
ツミ 16	ヒヨドリ 20	ヤマシギ 13
トウネン 14	ビンズイ 24	ヤマセミ 17
トビ 15	フクロウ 16	ユリカモメ 14
トモエガモ 7	ベニマシコ 25	ヨシガモ 6
トラツグミ 22	ホオアカ 26	ヨシゴイ 9
【ナ】	ホオジロ 25	ヨタカ 11
ニューナイスズメ 24	ホオジロガモ 8	【ラ】
ノスリ 16	ホシハジロ 8	ルリビタキ 23

(表紙の写真 シラコバト)

しらこばと 増刊号 (第 397 号) 定価 500 円 (会員の購読料は会費に含まれます。)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目
 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 本誌掲載記事はホームページに転載されることがあります。本誌または当会ホームページか
 らの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社